

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 成田市立玉造中学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注 1}
☒ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注 2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒 286-0011
成田市玉造 3-7

E-mail jh-tama@city.narita.chiba.jp

Website <http://www.edu.city.narita.chiba.jp/jhs-tamatukuri/>

幼児児童生徒数 男子 143 名 女子 125 名 合計 268 名
幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

（1）活動の概要

当校は、「徳・知・体の調和が取れ、自己肯定感をもった生徒の育成」を学校教育目標としている。ESD の実践を通して、地球規模の課題を身近な所から取り組むことにより、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性の育成を目標とした。地域美化活動（街角クリーン作戦やりサイクル活動）への参加に積極的に取り組み「地域に根ざした活動」を通して、地域の方々との交流を深め、地域を愛する心を育てていきたいと考えている。

具体的には、①平和・人権に係わる活動、②環境問題への取組、③伝統文化の体験・学習、④国際理解・国際交流に係わる活動を行った。

① 平和・人権に係わる活動

・全校生徒で折り鶴をおり、千羽鶴を完成させ、生徒会の生徒が夏休みに長崎を訪問した際に平和の像へ奉納した。2 学期の始業式後に現地に行った生徒が全校生徒へ訪問したときに感じたことを伝え、全校生徒で平和の大切さを確認できた。

・ユネスコ寺子屋運動の一環として、広報委員会を中心にして、全校で書き損じハガキの回収に取り組んだ。生徒集会で書き損じハガキがどのように使われるかを伝え、ポスターを掲示して啓蒙活動を行った。その結果多くのハガキを集めることができた。

② 環境問題への取組

・街角クリーン作戦

年2回(5月と12月)部活動の生徒と職員が地域の方々と一緒になって地域のゴミ拾いを行った。

・リサイクル活動

年2回(6月と11月)PTAと生徒が一緒になり地域からリサイクル品を回収し、業者へ引き渡しを行った。身近な地域のゴミ、リサイクル品の多さを実際に体感し、環境問題を考える、一助になっている。

③ 伝統文化の体験・学習

・1年生の家庭科の授業の中で、地域の方々の協力を得て浴衣の着付け体験を行った。

・2年生の家庭科の授業で地域のお雑煮やおせち料理について調べ学習を行い、昇降口に調べた料理の写真付きレポートを掲示し、全校生徒で情報を共有した。

④ 国際理解・国際交流に係わる活動

・姉妹都市サンブルーノ市(アメリカカリフォルニア州)からの研修生を迎え1日学校生活を共にすることで、日本とアメリカの学校・文化の違いを学んだ。積極的に英会話を取り入れ、互いに尊重し合うことができた。

・アルゼンチンからチャランゴ奏者のルイスサルトールさんが来校した。チャランゴ演奏を鑑賞した他、生徒・教員も演奏に参加したり、全員で楽しく踊ったりし、国際交流を図った。

・英語の授業において、道案内を設定した会話を取り入れ、直接外国の方と関わる際に役立つ実践的な活動を行った。



①の写真



②の写真



③の写真



④の写真

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	□ 2. エネルギー	□ 3. 防災	□ 4. 生物多様性
□ 5. 気候変動	■ 6. 国際理解、文化多様性	■ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	■ 8. 人権・平和
□ 9. 健康・福祉	□ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	■ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□ 16. ジェンダー平等	□ 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 生徒集会、休日)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

[世界寺子屋運動 | 公益社団法人日本ユネスコ協会連盟](#)

書きそんじハガキのムービー、ポスター、回収箱

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

地域の伝統文化において、家庭科の授業で伝統衣装について学び、着付けを体験する時間を設けている。また、正月のお雑煮調べを通し、地域によつての文化の違いについて気づき、学ぶ機会としている。

人権・平和について、長崎に折り鶴を送るため、全校で折り鶴を折り、平和へ意識を深められた。

また、折り鶴使節団として長崎を訪問した生徒による、戦争や平和についての研修発表会行った。生徒集会で時間を取り、全生徒で考える時間となった。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

全員にＥＳＤパスポートを配り、ボランティアすることの尊さ、大切さを伝えている。

地域の清掃活動、リサイクル活動への参加を学級や部活動単位で呼びかけ、意欲的に取り組める環境作りを行っている。

様々な教科で国際理解や伝統文化について触れ、学び、幼児から高齢者まで多くの方との関わりの中で多面的に考える機会を整えている。

生徒集会で生徒中心に書きそんじハガキの呼びかけをして全体に周知を図り、進んで参加する態度、平和への意識の向上を促した。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校主催の環境整備活動はもとより、地域のリサイクル活動や清掃活動に積極的に活動している。生徒・保護者に対し、各学期に行っている学校生活のアンケートにおいて、「ボランティアを行っている」と回答する生徒が非常に多く、年々増加傾向にある。ボランティアできる機会が生徒のモチベーションに対して足りていない部分が課題である。新たな地域活動などを開拓していけるとよい。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

地域のリサイクル活動やゴミ拾いでボランを貯めることができるので、多くの生徒が活動に参加した。前向きに取り組む、生徒の記録からは、地域のために働くことの大切さを実感した、などの感想が見られた。また、ボランティアに対する意識が高まった生徒が増え、自ら「何かボランティアできることはないか」と言う生徒も出てきている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ＥＳＤ活動支援センター、ＥＳＤコンソーシアムとの連携など）（２００字程度）

地域コミュニティとの活動

- ・街角クリーン作戦とリサイクル活動において、生徒と職員と保護者と地域の方々が一緒になって活動を行った。
- ・幼稚園訪問で幼児とのふれあいを通し、幼児に感心をもたせるとともに、自分の成長や家族・家庭と生活について感心と理解を深めた。
- ・着付け教室を通し、日本の民族衣装「和服」について考えるだけでなく、礼儀作法などを地域の方から学ぶ機会となった。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

成田市のユネスコ活動報告会において、同じ地域のユネスコスクールの児童・生徒との関わりの中で、各学校での活動や、地域でのボランティア活動の情報を共有できた。また、参加しているユネスコ協会の方々から、どのようなボランティア活動を、どのような場所、時に行っているか、などの情報を共有していただいた。小学生の感想発表を聞く機会となった。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

地域との関わりが増え、保護者、地域住民から生徒に対しお褒めの言葉をいただくことが多くなった。

折り鶴、寺子屋運動の取り組みを通し、生徒が平和や国際理解、貧困に関心を持つようになった。

教員もユネスコスクール活動を共に行う事で、ESD についてやユネスコについて関心を持ってきている。

(3) 平成30年度の活動計画(200～400字程度)

今年度ESDパスポート活用の呼びかけに力を入れたため、生徒のボランティア活動への意欲が高まっている。今後の課題はボランティアできる機会の提供である。地域の環境活動、リサイクル活動が主な活動であったが、更に地域のグループホームへの訪問などを開拓したい。様々な年代の方々との交流を通し、他者と協力する態度・つながりを尊重する態度の育成を図る。

また、引き続き教科担当の教諭と協力し、学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める環境を更に整えていく。